

事業名：「地域や関係機関と連携した防犯教育公開事業」

(学校安全総合支援事業)

モデル地域：市原市 双葉中学校区  
 所轄教育委員会：市原市教育委員会

拠点校：市原市立光風台小学校  
 電話番号：0436-23-9849

### 1 モデル地域の現状

○モデル地域名：市原市 双葉中学校区
○学校数：3校
市原市立光風台小学校
市原市立戸田小学校
市原市立双葉中学校
○取り組む領域：防犯を含む生活安全
○取り組む課題：防犯

### 2 モデル地域の安全上の課題

<p>拠点校のある地区は、住宅街を一步出ると、林やゴルフ場もあり、人目のない場所もある。このような状況下において子どもたちの危機察知能力・危機回避能力を育成していくことが望ましい地域である。</p>
---

### 3 取組の概要

#### (1)実施概要

実施時期	計画事項	参加者
各月	校内研修 防犯パトロール	教職員、自治会
6月	第1回実践委員会	講師、学校代表、自治会、教育事務所、市教育委員会、市危機管理課、市青少年指導センター

7月	第2回実践委員会	講師、教職員、自治会、教育事務所、市教育委員会
9月	校内フィールドワーク（4年生）	児童、教職員、自治会、教育事務所、市教育委員会
	第3回実践委員会	講師、教職員、自治会、教育事務所、市教育委員会
10月	防犯アンケート調査（4年生） 中核教員打合せ会議	教職員
11月	地区フィールドワーク（4年生）	児童、教職員、自治会、教育事務所、市教育委員会
	第4回実践委員会	講師、教職員、自治会、教育事務所、市教育委員会
	防犯教育公開事業	児童、教職員、関係者

11月	第5回実践委員会	学校代表、自治会、教育事務所、市教育委員会、市危機管理課、市青少年指導センター
1月	第6回実践委員会	教職員

#### 4 具体的な取組

##### (1) 学校安全の中核となる教員の資質能力の向上に係る取組について

###### ア 校内フィールドワーク

(ア) 日時 9月12日(水)

###### (イ) 参加者

児童・職員・自治会

約60名

地域でのフィールドワークを前に、校内でのプレフィールドワークを行い、デジタルカメラ、ICレコーダー、GPSロガー等の使用方法や使用の際の注意点、また、危険箇所を見る視点「ひ・ま・わ・り」について学習し、意識を高めることができた。

###### イ 地区フィールドワーク

(ア) 日時 11月1日(木)

###### (イ) 参加者

児童・職員・自治会

関係者 約60名

地区におけるフィールドワークでは、子どもたちとは違う視点から危険を捉えるため、地域のボラ

ンティアの方々の協力をお願いし、一緒に活動をしていただいた。児童は「新しい視点で危険や安全な場所を見つけ、防犯意識を高める」という目的で行い、自分ちの身の回りの見逃している危険箇所を再度確認したり、新たに発見したりし、安全に対する意識を高めることができた。



###### ウ 防犯教育公開授業

(ア) 日時 11月19日(月)

###### (イ) 参加者数

児童・職員・保護者・地域住民関係者・教育関係者

約200名の参加

防犯マップ作成にあたり、情報収集、課題設定、整理・分析、まとめ・表現という単元の設定を行い、単元の中で、児童が自ら考え、その考えを深めながら一つ一つの単元に見通しをもって取り組んだ。

(ウ) 授業

4年1組 総合的な学習の時間

4年2組 総合的な学習の時間

題材名

「みんなで防犯 安心なまち 光風台」

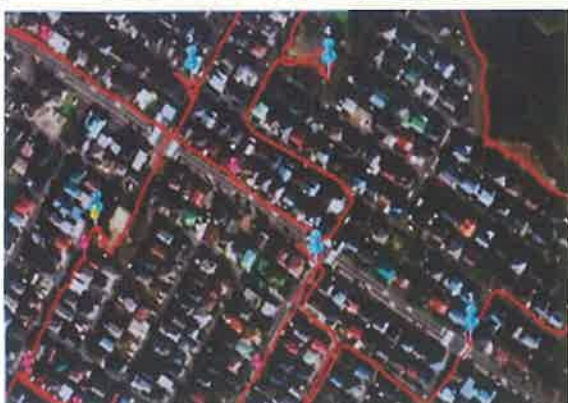
4年1組

～自分たちの地区にはどのような特  
ち  
があるのか見つけよう～

4年2組

～「聞き書きマップ」を使って「光風  
台安心マップ」をつくろう～

授業において、児童たちは、これまで  
の日常生活の体験や今回の「聞き書  
きマップ」作りを通して、わかったこ  
とや考えたことを、グループや個々に  
交流する中で、類似点や相違点を見つ  
けることで、自分の住んでいる地区の  
特徴をつかみながら防犯に対する意識  
を高めることができた。また、危険を  
予測したり、判断したりする力を育む  
きっかけとすることができた。



**(2) 学校安全の取組を評価・検証するた  
めの方法について**

市内全校の安全担当教員に対し  
てアンケート調査を実施し、取組状  
況を把握し、推進委員会において成  
果、課題、今後の方向性について報  
告を行った。

ア 管理職の他に、学校安全を推進  
するための中核となる教員を校務  
分掌に位置付けている学校の割合  
100% (63校/63校)

イ 学校安全に関する校内会議や研  
修等を実施し、危機管理マニユア  
ルの見直しや内容の周知などを行  
い、日頃の安全教育・管理や危機  
発生時における各教職員の役割に  
ついて、共通理解を図っている学  
校の割合  
100% (63校/63校)

ウ 学校安全の取組に関する授業公開や成果報告会、研修会等を実施し、他校や地域への情報共有を行った学校の割合

47.6% (30校/63校)

エ 地域と連携した防犯体制（合同防犯訓練、定期的な協議会の開催など）が構築されている学校の割合

100% (63校/63校)

オ 危険箇所・地域安全マップの作成、活用が実施されている学校の割合

100% (63校/63校)

#### ※いずれも事業実施後の調査結果

アンケート調査において、学校安全の取組に関する授業公開や成果報告会、研修会等を実施し、他校や地域への情報共有を行った学校の割合が50%弱となっており、他校や地域との情報共有を積極的に進めていく必要がある。

#### (3) その他の取組について

各学校において、防犯教室が行われ、体験型の教室や警察OBによる防犯ボックスの説明など、さまざまな取組が行われている。

## 5 成果と今後の課題

### 【成果】

#### (1) 校内・地区フィールドワーク

児童がフィールドワークを通して、身近な地域に潜む危険箇所について、興味関心を持って体験的に学び、安全意識を高めることができた。

#### (2) 防犯教育公開授業

児童が「聞き書きマップ」の作成にあたり、自ら考え、その考えに基づいて活発に話し合うなど、主体的・対話的な学習を深めることができた。また、自分たちが学んだことを発表することで、自分の防犯意識を高めることとまとめ方を向上させることができた。

#### (3) 防犯教育講演会

講演会において、「安全マップ」の必要性と「聞き書きマップ」の有用性について有意義な研修をすることができた。



#### (4) その他

ア 実践委員会の設置により、モデル地域の学校・保護者・地域・関係機関が連携し、地域の安全について情報共有することができた。

イ 「聞き書きマップ」の有用性とその作成における地域との連携効果について、市内外の教職員へ普及することができた。

ウ 講師（科学警察研究所：特任研究官）の専門的知見による指導により、防犯に関する指導の視点について方向性を定めることができた。

### **【課題】**

ア 「聞き書きマップ」について、効果的なソフトであり、有効であるが、その指導にあたり、ハード・ソフト面についての理解と操作習得に一定の時間を要する。

イ 拠点校を中心として、「聞き書きマップ」を活用した防犯教育を他校へ普及させるにあたり、機材の数量が限られているため、普及に期間を要する。

オ 全ての学校において、児童生徒が自他の安全確保についての確かな思考・判断に基づく適切な意志決定や行動選択ができるように安全教育を進める。

### **【今後の取組】**

ア 拠点校が中心となり、「聞き書きマップ」を活用した防犯教育、その推進体制について成果の普及を行っていく。

イ 全ての学校において、児童生徒が安全マップを活用し、身近な危険を予測・回避し、より安全な行動をとることができるように、既存の安全マップの更新を進めるとともに、安全マップを有効に活用した安全教育を進める。

ウ 防犯教育の推進にあたり、全ての学校において、中核となる教員を中心として、学校・地域の実態に合わせた取組を推進する。

エ 各学校が保護者・地域・関係機関と連携し、積極的に情報共有を進め、組織的な安全体制の構築を行っていく。